2016年度

武蔵野市における市民活動・NPO(5)

「武蔵野市における市民と行政の パートナーシップによる地域づくり」

成蹊大学　武蔵野市地域研究　報告書

木の花小路公園の市民による管理

生きものばんざいクラブ 代表
櫻井 勝實
2017年1月10日

私は「生きものばんざいクラブ」の代表をやっている櫻井と言います。今日は、武蔵野市における行政と市民のパートナーシップによる地域作りということで、木の花小路公園の生い立ちから今に至るまでのことについてお話させていただきます。

まずその前にみなさんに「木の花小路公園」に行ったことのある方、あるいはご存知の方、ちょっと手を挙げてみてください・・・はい、ありがとうございました。ほとんどの方がどこにあるのかよく分からないと思いますから、地図でお話したいと思います。

木の花小路公園の場所

（地図を見せながら）まず、これが成蹊大学です。西門を出て五日市街道に向かって、1本目の道が「かくれみの小路」と言います。その次に桜並木があります。これが「木の花小路」と言います。公園は木の花小路に接しているので「木の花小路公園」という名前になっています。

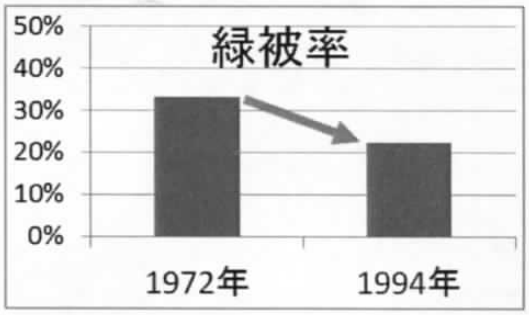
こちらは航空写真です。西門より10mも行かない位の処に「かくれみの小路」があり、これを100m位行った処に「木の花小路公園」の入り口があります。公園は通り抜けて木の花小路へ出られます。最初に出来た木の花小路公園は桜並木にのみ接した面積が半分の広さの公園で、３年前に倍の大きさに拡張されて「かくれみの小路」に繋がり、通り抜け出来るようになりました。それまでは「かくれみの小路」からは公園に入れなくて、現在の公園の真ん中で行き止まりになっていました。そのことについては追ってまたお話いたしま

す。

武蔵野市の緑化政策

これは昨年11月に市役所の「緑のまち推進課」の関口課長さんからお話がありましたが、その中で公園に関係することについてお話していこうと思います。武蔵野市は面積が10.7平方キロメートル、人口が現在14万４千人位で全国でも有数の過密都市になっています。大体１平方キロメートルあたり１万２千人から１万３千人くらいの人が生活しているという状況です。

1971年に、武蔵野市として長期計画、第１期長期計画というものを立てています。これは将来武蔵野市をどのような方向に持っていこうかという計画です。その中に６つの大きな柱がありまして、その中の最初に、「水と緑のネットワーク」としてこの緑化の問題が取り上げられています。ですから、武蔵野市は、緑化に対しては非常に力を入れていることがわかります。



1972年に、ここに出ている緑被率の調査が始まります。この緑被率というのは武蔵野市の全体を航空写真で撮って緑がどのくらいあるのか、ということを調べました。1972年には33.3%だったのが、22年あとの1994年になりますと、これが22.6%になり、減少してしまっています。何故そのようなことが起こっているかという事ですが、武蔵野市は東京都２３区に隣接していて、交通の便も良く、買い物にも非常に便利なところなので人が移って来てどんどん都市化が進み、土地が高騰しました。そこで問題になってくるのは、相続税の問題です。

例えば親が亡くなって次に引き継ぐ場合、相当な相続税がかかる。そのために自分が相続した土地の一部を切り離して売却し、それが宅地化され、どんどん緑が減ってきてしまったということが起きました。市としても可能な限り、買いとっては来たのですが、予算の問題もあり、どんどん宅地化していったということが現実でした。市として購入できたのは細分化された土地が大部分になります。結局、地価が高騰して、土地が宅地化されていきました。

武蔵野市として、民有地、いわゆる一般の家庭が持っている土地の緑地面積比率がだいたい70%ですから、どうしても市民の協力を得なければいけない、

ということで1997年に「緑の基本計画、武蔵野リメイク」という構想が発表されています。武蔵野市として緑化行政をいくらやっていても現状ではとてもまかないきれない、どうしても市民の協力を仰がなければいけない、ということで出きた構想です。

武蔵野市ではこの当時、公園の数として144の公園がありました。その半分以上が比較的小さい公園です。狭い土地を公園として作っていくにはどうすればいいのかというと、まず１番に、手っ取り早くて安くできるのがブランコとか、滑り台、砂場。こういった遊具施設の３点セットといったものです。それを作っていくのが１番安上がりで、また早くできるということですしね。その結果としてそういう児童用の小規模児童公園が、あちこちに点在するようになってきました。それで２番目として、公園に対する市民の要望の多様化という問題が出てきます。こういう小さな公園ばかりでは、大人の人はあまり関心を持てません。もっと他の公園を作ってほしいという意見がでてきたわけです。それをつくるには、どうやっていくかということについては、地域の皆さんの意見を聞き一緒に計画を進めていくことが必要になってきます。そうなるとまた、費用も今までより高くなる問題も出てくるわけです。

市民参加型の公園づくり

それで行政側の問題としまして、経済が低成長期時代になりますと税金の収入は伸びてきません。一方だんだんと介護問題等、新しく費用を使わなければいけないという問題が出てきています。市の予算としてはどうしても、既存の設備事業に対して規制をしていかざるを得なくなってくるわけです。

一般に新しいところに公園を作る場合、それは市の単年度事業費でもって賄います。また国とか、都からの補助金も出ます。一方、既存の公園につきましては、毎年維持管理費がかかります。例えば木が大きくなったら枝を切るとか、ごみの清掃あるいは草取り、イタズラで壊れた備品の修理費、電灯の電気料金あるいは水道料金。そういったものは毎年必要な固定費で、維持費として公園を作れば必ず出てくるわけです。公園が新しく出来ると毎年その分だけ費用がかかります。それでは、市としては財政破綻になってしまう。どうしても市民に協力してもらわなければいけない。そこで「市民参加型の公園づくり」ということが命題として出てきたわけです。

でも公園は公共のもので、一般の人が勝手にいじるわけにはいきません。市民が育てる公園としてはどういう公園が良いのかというようなことを、模索し

ていく段階に入ってゆきました。それで武蔵野市では「ワークショップ方式」と言っていますが、「市民参加」という、公園づくりが始められたんです。そして、そのモデルとしてこの「木の花小路公園」が取り上げられました。

それで、検討段階で市民に参加してもらう呼びかけをやったのですが、実際には公園の近くの人くらいで、多くの人は集まらなかったと聞いています。今までは公園については考えたこともなくて、また自分の家の庭の掃除だけで十分ですと言うような人も沢山いて、公園に対してあまり関心がある人は少なかったんです。その為に集まってはいただいたけれども、こういう公園を作りたいんだという明確な意見はすぐには出てこなかった。また、公園を維持管理するボランティアをしてもらうには、ずっと継続して公園の管理をやってもらなくちゃいけない。そうなるとどうしても大勢人が来てくれて、魅力のある公園じゃないとなかなか集まってくれない。それで、武蔵野市では「木の花小路公園」をモデルケースとして作ることになったのです。

木の花小路公園の整備

面積は700平方メートルです。「木の花小路公園」として整備するにあたって、公園の形、利用する人の思考、そういったものを中心に計画段階から市民による公園づくりを行う。これは初めてのことだったのですが、ちょうど、その地域で緑化活動をしていた梅田彰さんに検討チームに参加、市民案のまとめ役を市より依頼してチームを立ち上げました。

この事業については、設置段階から市民参加による公園づくりを行うという事を市として決定しており、事業の実施に当たっては環境省の「自然共生型地域づくり事業」という指定を受けて助成金をもらってスタートしました。まず実際のワークショップを始めるに当たり、公園の具体的な利用イメージ及び完成後の管理運営体制の見通しについて検討を始めた。ワークショップ活動の中で自然との共生できる公園をコンセプトに、公園の基本計画が次のように決まりました。

① 既存の大木、竹林を保存する。
② 自然の少ない都市部にミニビオトープを創出する。
③ 自然をキーに地域コミュニティの拠点となるような公園とする。
④ 山野草の栽培や昆虫の飼育などサークル活動出来る体験型公園とする

どんな公園にしたいか

これを基に計画を練っていくわけですが、実際にいろんな立場の人がどういう公園を望んでいるかということから検討しました。まず公園に訪ねてくる人はどんなことを望んでいるのか、公園周辺住民はどう思っているのか、公園を管理運営するにあたって何を望んでいるか、それぞれ整理してみました。

＊公園に来る人達の潜在要求

①身近な緑地。・・・自分の足で歩いて行ける身近な自然・緑地を欲している高齢者人口が年々増えている。

②心をいやす緑地・・・土地の高騰に伴い庭のない高層集合住宅居住者が急増している。そういう人達は心をいやす緑地を欲している。

③季節を感じる緑地・・・四季折々に見られる小さな発見、小さな感動。季節感あふれる緑地にしたい。アッ！こんな処に可愛いい花が咲いているといった感動を与えたい。

⑤ 子供の好奇心を満たし、感動させる自然がある緑地・・・市街地の子供はゲーム等に夢中になり、自然に接する機会が不足している。自然に触れてそこから得られた感動等を育てられる場としたい。

＊公園周辺住民の立場からの潜在的要求

静かな住宅地に作る公園であり、まず公園の周辺住民に一番親しんでもらえる公園でなければならないでしょう。その為にはそれなりの配慮が必要になります。

① ホームレスや暴走族の溜まり場になって欲しくない。・・・周りが乱される。トラブルの元は困る。
② 騒がしい場所になって欲しくない。・・・静けさを乱されたくない。

③風紀問題やゴミの散乱で見苦しくなって欲しくない。・・

③ 落ち葉、煙、ゴミなどが庭に流れ込んで欲しくない。

⑤プライバシーが侵されないようにしてほしい。・・・他人に覗かれたくない。

＊公園管理・運営の観点からの要求

公園の管理・運営は継続して行わなければならない。継続して行われるための原動力は何なのか探ってみました。

① 新しい発見や感動が得られ、作業が楽しい公園。・・・維持管理作業を行うことにより、年間を通して、新しい発見や感動が得られて作業自体が楽しくなるような公園。
② 作業の継続により誉めてもらえるような維持活動・・・公園に立ち寄った第三者から「きれいな公園ね」とか「わー、ご苦労さん」等の声を気軽にかけてもらえるような公園にしたい。
③ 清掃作業だけでなく自分も楽しめる維持活動・・・自分達で植物を植え、育てたり、写真や記録を取り掲示したり自分で好きな事が出来る公園。
④ 活動を通じ、学んだり和やかな人の輪を築ける・・・自然を共通の話題としたコミュニケーションの場とする。

木の花小路公園のイメージ図（基本設計）作成

それぞれの立場より個々に要求事項を整理してきた。この検討結果を基に木の花小路公園の具体化に向けて各自それぞれ意見を出しあった。結果は子供の頃慣れ親しんだ懐かしい自然、それを思い出せるような公園にしたい。その為にはどんなものを置いたら良いか。施設が必要か、それらをいかに配置するか子供の頃を思い浮かべながら検討にはいりました。　　。

① 里山風公園（子供の頃馴染んだ自然、懐かしい自然）とする。

子供の頃、慣れ親しんだ懐かしい自然、そういったものを思い出していけるような公園にしたい。じゃ、どんなものを置いたら良いか。そうするとまず小さな石垣を作りたい。その石垣に沿って岩場だとか、あるいはせせらぎ、湿地帯も作りたい。あるいは里山の小さな山を作ってそこに草花を育てたい。あるいはロックガーデンを作りたい。そういった希望がたくさん出まして、それで変化に富んだ地形を取り込んで公園を作っていこう。ただまっ平らなだけでは芸がないということで、いろんな形の場を作れればそれだけまた、いろいろな草花を多様な植物を植えられるんじゃないかということです。これらをベースとしてイメージ図を作りました。

② 散策路と栽培地の柵による区別

それから散策と栽培地の間に柵を作って、これはせっかく植えたものを荒らされたくない。自分たちで自由に草花を育てたりできるような場所もやっぱ

り欲しい。

③ 発表など自己実現の場を用意

自分の意見、あるいは公園の実情だとかを皆さんに知ってもらえるような場を作りたいということで、掲示板を設置しました。それから、皆さんが休めるコミュニケーションの場として東屋（あずまや）を計画しました。

④ ホームレス・暴走族の溜まり場防止策、落葉・プライバシー対策

人は水とトイレさえあればどこでも生活できるんです。ですからホームレスに住みつかれると困るので、トイレは公園に作らないことにしました。それから暴走族はどちらかというと広い場所で大勢集まって大騒ぎするのが常ですから、そういう広場は作らないことにしました。落ち葉だとかプライバシー対策としては、塀をつくる、あるいは土手を作って、ゴミが飛ばないようにするとかいうようなことをイメージとして作っています。

短期間ではありましたが、精力的に要望を取りまとめてイメージ図（基本計画図）を完成させました。

木の花小路公園造成工事・開園

それを基に、施工図をつくりましたが、実際にできた施工図、あるいは公園の姿というのが、最初に市民の人たちがみんなで考えた最初の姿がほとんど取り入れられています。現在の公園の姿というのは最初に市民の人たちがイメージした図がほぼ100％に近い姿で実現されています。実際にその施工に当たって注意したことがあります。水生植物のための小さな池を作って、ここでホタルを飼おうという計画が最初からありました。でも最初のうちはせせらぎに小魚を放流し、次に山野草の栽培、それから昆虫や野鳥の餌となる草木の栽培、関東近辺の山野草など、自然を取り戻すために工夫されています。これは、地域の自然守っていく為に、外来種や園芸品種、そういったものは極力使わないようにして、関東周辺に残る山野草中心でやっています。それは地域の自然、生態系を残していきたいということです。

それから施設の方では、地下水をくみ上げて循環使用してますが、これは地下100m から毎時20L の水をくみ上げて循環使用しています。また、森林と昆虫に優しい照明器具を採用しました。新潟の方でホタルを飼育している団体といろいろ相談してアドバイスを頂いて低ナトリウムランプを使用したオレンジ色

のものに決めたと聞いています。

それから小動物のための川べりに安山岩を採用しました。石を積んで川を作りますが、その石積みは隙間を全部詰めてしまうのではなくて、空洞にしておき、小魚たちがそこに潜り込めるようにしています。それから、山野草や高い木。まあこういったものを飼育に適した配置になるように植えています。

木の花小路公園開園とマスコミによる紹介

こうして、公園が1998年３月に完成し、４月12日が開園日となりました。この開園日には、当時の土屋市長も来られて挨拶、記念植樹をされています。木の花小路公園の開園式に来られた一般の人達も記念植樹をしました。公園ボランティア活動への参加の呼びかけも併せて行っています。この式典は、「FM むさしの」が現場中継をし、『読売新聞』でも大きく取り上げてくれてくれました。後日、『朝日新聞』や『東京新聞』にも掲載されています。

秋頃、NHK がラジオの第一放送で、「私の街でみつけたもの」という番組にて「木の花小路公園」を紹介してくれ、翌日には NHK テレビの「おはよう日本」でも紹介をしてくれました。公園が出来ましたよということを。『東京新聞』は計画・設計・管理全て手作りですと、それから『読売新聞』では、「里山宅地に出現、吉祥寺にホタル池やせせらぎも」というタイトルで出ています。それから「朝日新聞」は「自然な生態系願い、住民が管理」住宅街に里山再生という見出しになっています

武蔵野市がワークショップによる初めての公園として大々的に宣伝してくれたのが功を奏して NHK はじめ大手各新聞社が報道掲載してくれたこれは私達生きものばんざいクラブにとって大変ありがたいことでした。

生きものばんざいクラブについて

「生きものばんざいクラブ」の活動について。「木の花小路公園」が開園しますと同時に、設計段階から検討チームに参加していた人達、今日ここにも何人かその当時の人達が来られていますが、そういう人達が中心になって、「生きものばんざいクラブ」を結成しました。そして、武蔵野市と公園を管理することにつきまして協定を結び、以降「生きものばんざいクラブ」が木の花小路公園の一切を管理する格好になっています。

出来てからの管理について、今日に至る間の特記事項をまとめてみます。1998年に、土屋市長が全国の市長会等でこの「木の花小路公園」を紹介した、あるいは市の職員が地方に行って「木の花小路公園」を紹介したというようなこと。それから先ほど話したように新聞での紹介等にて、全国からかなりの人が見学に来てます。たかだか700㎡といったら、この部屋よりちょっと大きい位のものだと思うんですが、そんな公園を、市民参加で造った公園ということで来てくれたのだと思います。他ではほとんどそういう格好でやってなかったんですね。行政の方で勝手に作って、お前達これを利用せよとこういう風な格好だったんですが、それじゃやっぱりまずいということで、九州だとか四国からも視察に来ています。私がクラブの記録を調べただけで、20位の団体が視察に来てました。それからこの頃、高田先生が放送大学で「木の花小路公園」のできるまでの経過について、放送大学でお話しされています。いつ頃かは先生も忘れたかもしれませんけど（覚えていますよ……高田）。

それから1998年、オープンになった同じ年ですけれども、（財）都市緑化基金から武蔵野市が市民参加を推進したということで評価されて、緑豊かな都市づくり団体ということで「緑の都市賞」というものを受けています。これは「木の花小路公園」を作ったってことがメインになったと思います。それから2000年には、環境省の『環境白書』にも載っています。これは総論の中で、豊かな自然環境を取り戻し、地域の憩いの場を作るという項目の例として、３ページにわたって公園と活動内容について記載されています。その翌年の2001年、「自然環境功労者環境大臣表彰状」、これを生きものばんざいクラブが授与し、後日に川口環境大臣が公園を視察されています。これがその表彰状ですけれども。

環境相が公園視察

表彰状

生きものばんざいクラブ殿

貴会は都市部におけるトンボづくりの先駆的な活動に技術的に恵まれ自然環境の保全に尽力されたその功績は誠に顕著なものがありますよってみどりの日にあたり これを表彰します

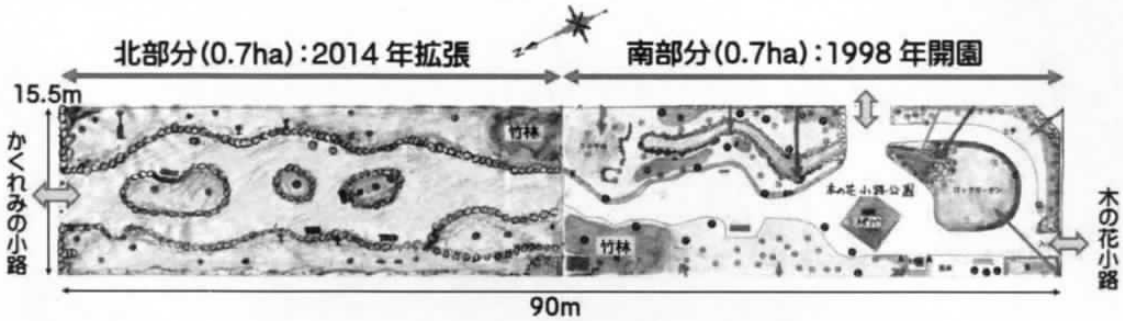
平成十三年四月二十九日

環境大臣 川口順子

これはビオトープづく

りの走りということで、そのモデルということになっているんだと思います。それから、『２０１２年武蔵野市市政要覧』という本が発行されてますが、その中に「木の花小路公園」と「生きものばんざいクラブ」のことが記載されています。

それから2014年に公園が２倍に拡張されました。



水、循環水がロックガーデン中腹から出てきて滝もあります。それからせせらぎとなって、20m 先で小さな池のように水が貯まるようにしてあり、それから地下に水を落とし、循環させるという恰好になっています。それから中央部は竹林になっていて、ここにロックガーデンが、ここにも湿地、小さな山があって、という恰好になっています。それからこちら新しい方は、竹藪があり、樫の木と、欅などの大きな木があります。以前はここでもって閉め切られており、そしてこちらのほうが鬱蒼とした大木があるもんですから、薄暗ということで、ちょっと安全っていう面からみると、心配しとったこともありました。それがもう一気に開通したら、非常に明るくて、夜の９時ごろでも明かるい状態で、夜通って帰る事ができるというような恰好に変わってきて、近隣の人たちからは非常に喜ばれています。

「生きものばんざいクラブ」の広報活動

それから「生きものばんざいクラブ」の広報活動について。報道関係では NHK は先ほどありましたけども、あと「ＦＭむさしの」、あるいは「武蔵野・三鷹ケーブルテレビ」がイベントの時に取材に来て、時には放映して頂いています。それから新聞についてはやはり、一番大手では『読売新聞』あたりが時には載せてくれているようです。あとは『市報』、『むさしの市報』を中心に、イベントのある時とか、そういった時は案内を出しています。それから『四季の公園だより』、あるいはこの『せせらぎ通信』、『北町コミセンだより』。これらは公園が出来た当時、２～３年の間はあちこちで自然というものに対して、行政主体ってこともあったんだけど、自然に対するエッセイだとか、あるいはこんな

花が咲いてますよって、そういったような案内をしていたように思います。

それから『このはなのおと』。こういうノートを置いた…これですけども。これは、公園に来られた人に日々何かを綴るノートっていうのを置いて、それで皆さんに気ままに書いてくださいっていうことで、公園の印象だとか、そういったものを書いてもらってたんですが、それがもう年が経つに従って、目に余るような落書きがどんどん増えてきたものですから、１年半ぐらいで辞めました。それからあと『歳時記』。これはもう設立当時から続いたんですけども、これを作っていた作者が高齢化して、12年間で終わりとしました。それから「掲示板」と「ホームページ」ですね。これを活用して、その時々の情報、季節の情報だとか、あるいはクラブの連絡、イベントのお知らせだとか、そういったものを紹介しています。これがうちの「ホームページ」です（パワーポイントで見せている）。これが公園に咲いてる花とかですね。それからこれは緑のボランティア団体。

生きものばんざいクラブの年間活動

年間の活動ですけども、季節の花や木、それから山野草の植え付けとか。これが主な仕事になっていますが、あと公園の清掃、あるいは夏場の散水。公園の清掃は、毎月第２、第４土曜日に、定例の会議も含めて全員集まって、公園の掃除をやってます。この第２土曜日に、成蹊大学の学生さんの Uni. の人達が、グループで約10名前後、毎回来てくれています。これは２年ぐらい前から来ていただいてる訳です。それで夏場だけは乾燥してしまうので、グループに分けて、ロックガーデンだとかそういったところへ水を、草花に水をやってもらってます。

それから成蹊の「桜まつり」への参加。これは生き物ばんざいクラブが出来た翌年から、もう10何年続いています。成蹊の「桜まつり」に参加させて頂いて、資金集めということで、売店を出しています。主に田楽とか、甘酒を。それからあと公園で育てた草花、そういったものを鉢にいれて売っています。成蹊の「桜まつり」は４月の第１日曜日ですが、それに参加させて頂いて、公園の維持管理だとかの資金を稼いでいます。

それから「七夕祭り」。これは地域の人たちの交流の場ということで、７月の第１日曜日に毎年やっています。ここでどんなことやっているのかと言いますと、以前は、蛍を飼育

して、それで七夕の時に皆さんに楽しんでもらうという予定でスタートしたんですが。実際には、公園の循環している水が、林の中っていうか日陰をずっと循環してるものですから、なかなか水温が上がってこないんです。それでなかなか蛍のエサになるカワニナも育たないことがあって、せいぜい数匹、あそこで蛍が誕生したかどうかという程度で終わっています。その為に七夕祭りの時には、新潟県の方からわざわざ蛍を取り寄せて、囲いをつくってその中で蛍を１週間～10日間位ここに放し飼いにして楽しんでもらう、ということをやっていました。ただ、それも予算の問題もあり、あと公害だ、なんだかんだで、蛍も少なくなってきて、途中から蛍を見せることは終わっています。現在は昼間に七夕祭りをやっています。これは皆さんに短冊に願い事を書いてもらい、それを竹に飾り付ける。あるいはアコーディオンやオカリナの演奏会をやる。あるいは一緒になって皆で歌を歌う、抹茶をたてるとかですね。それから公園の小枝等を利用して小さな細工ものを作る、というようなこともやっています。

2016　さばめし体験

2017年の七夕祭りでは「サバ飯」を体験しました。サバっていってもあの魚の鯖じゃないですよ。サバイバルのサバです。ビールの350cc のアルミ缶、これが２個とあと牛乳パック２本。これがあれば１食分のご飯が炊けます。それは初めてなので公園でやってみました。アルミ缶の１つにはお米を大体８分位、もう一つのアルミ缶の下に穴をあけて、そこから細かく切った牛乳パックを燃料として燃やすんです。２０分位でご飯が炊けます。初めての経験ででしたが、結構おいしいご飯が炊けました。今年どうするかは、これから考えます。

2016小枝細工

こちらは公園にある小枝だとか木の実、どんぐりだとか、そういったものを利用して飾り物を作っているところです。こういったことも七夕祭りの中で子供たちとやっています。

それから「緑のボランティア団体」という組織があるんですが、武蔵野市で、私達と同じように市民団体が市と契約して公園を管理しているグループの集まりです。現在25の団体が今年の４月の段階で活動しています。それで「生きものばんざいクラブ」は「緑のボランティア団体」の最初のグループということです。それから２年ほど前から、成蹊大学の学生さんが清掃の

応援に来ていただいています。第２土曜日に10人前後の人達が毎回手伝いに来てくれています。それから成蹊大学 環境委員会「桃球」の緑川さん、２年間ほとんど全部来て、僕らと一緒に作業をやっています。

お願いされた私の方の話はこれで終わらせていただきますけれども、これは（写真を見せる）昨年の七夕で、前の方にいらっしゃるのが学生さんです。今年は15人ほど大勢の方がきて、一緒になって祭りを盛り上げていただきました。

それでは公園のボランティアにきていただきました真下さん、そのときの感想でもちょっと述べていただけたら。

【質疑応答に移って】

（学生）感想なんですが、自分は群馬県の出身なので、初めてこの公園に行ったときすごいきれいだなーと思いました。群馬県にはないのかもしれないなーというくらいにきれいだなーという第一印象をもちまして、ボランティアで実際に草むしりとかをしたんですが、結構大変だなーという実感を持ちました。

（高田）何が大変だったのですか？

（学生）体力面が大変だったなぁー、以上です。

（櫻井）ありがとうございます。ではもう１人、岡本さん、お願いします。

（学生）自分も落ち葉掃きと雑草抜きをして。雑草抜きの方は結構重労働で、しゃがみながらやったので腰を痛めながらだったんですけど。その中でもボランティアの人たちは、なんか世間話とかしながら活動していたり、地域の家族連れが遊びにきて、あっ今掃除してるからまた後で来ようねみたいな、周りの人たちのなんか憩いの場にもなってるんだなっていうのを感じました。

（櫻井）「桃球」の緑川さん、あっ来られてますね。緑川さんはもう来年卒業ということなんですけども、毎回いつも来て、うちのグループの人たちと楽しく仕事をしてもらってると思うんです。ちょっとお願いします。

（学生）緑川って言います。もともと「桃球」っていう学生環境委員会っていうところに所属してたんですけど。そこからそこの委員長として関わって、この団体「生きものばんざいクラブ」と関わったら、確実にうちの団体としても

発展できるっていう風に思ったので、やっぱりやりがいっていうところとか、あと地域の人との交流とかという点で、関わりたいなって思っていて。

けどまぁいろいろ問題があって、「桃球」内ではなかなか地域の人と関わりたいって人はいなくってですね、じゃあ個人的に関わろうっていう形で、関わり始めたんですけど。最初この公園を知ったのが、１年生の時だったんです。１年生のときにまだ改装はされてなくて、ちょっと薄暗い感じの公園だったんですよね。それが３年前くらいから改装されて、かなり綺麗な公園になったんで、そこで初めて関わりたいって思い始めたんです。

こんなに綺麗な公園っていうのを管理されてる団体は、どういう団体なんだろうっていうのを知りたくって、関わり始めて、やっぱりすごい団体だなーっていうのを思ってます。さっきも出てたように、新聞とかも出てるような、もともとのビオトープっていうもののモデルケースとして市民と共同で作ったっていう点でもすごいし、あとちょくちょく政治家さんとかここに訪れたりとかしたりしてますし、やっぱりすごい団体だなーっていうんーで。やっぱりその団体を運営できるのには何個か要因があって、まず櫻井さんがリーダーとして、基本方針、この団体の運営方針っていうのを押しつけないっていう点でもそうだし、基本みんなの意見を収集してまとめながら進めてくっていう団体の運営方針をしてるから、リーダーシップっていう点でもいいのかなーって思います。

あともう２つあって、１つが、公園自体が綺麗だからっていうので、やっぱりメンバーのやりがいっていう点でもいいのかなーっていうのが１つ。あともう１つは、これは大きいと思うんですけど、メンバーの方皆さんがものすごく楽しみながら活動されているっていう、やっぱり園芸っていうのが好きだし、あとコミュニケーションっていうのが好きだし、そういう方が集まって関わられるので、それで団体を運営してくっていうのがやっぱりここまで運営できてきたっていうその理由なんだろうなと感じています。

あとやっぱり課題っていうのはあって、行動としても冬場になると寒いので、家の中に籠もりがちになってしまうってせいか、参加率もちょっと低くなっちゃう傾向にあるのかなーっていうのがあります。そこで何かイベントがあればいいんですけど、夏とか春に比して、冬だけはないから、そこはこれからの課題で、Uni.の方とか、どんどん意見とか出していってくれると、この団体もそうだし、この地域もそうだし、発展していけるかなっていう風に感じてます。まぁ若者として、ちょっと若者目線で色んな意見を出していければなぁーっていう感じで関わりたいなーと思っています。

（高田）随分と長くしゃべってくれて、ありがとう。では次は市民の方々に。

（市民）質問なんですけれども、七夕祭りとかって先ほど学生さんが遊びに来てるみたいな風におっしゃったんですけど、それはうちの大学の学生ですか？それとも近隣の小中学生ですかね？

（櫻井）遊びっていうか、手伝ってもらってるんです。Uni.の方たちです。

（市民）今日は貴重な話をしていただき、ありがとうございます。「木の花小路公園」は市民の方が計画をしたとかいうことをおっしゃってたんですけど、市民の中にそういう設計とかに精通している方がいらっしゃるんですか？

（櫻井）実際の設計については、必ずしもそうではないと思いますけれども、かなり精通した人が最初の段階でですね、計画の中に入ったということだと思います。ですからその人が中心になって、一般の人は、設計やったことないですからね。こういう形にしたいって言っても、今度は実際にそれを具体化していくとなると大変なんです。じゃあどういうものを実際に使ったらいいのかって、色々出てきます。まぁそれでみなさんの意見を持ち寄って、今のかっこうになったのだと思います。だからその中心になった人が全部やったっていうことじゃないんです。みなさんの意見を集めて、じゃあこんな格好がいいだろうかっていうことで、みなさん頭を揃えてやったんじゃないかな。私、そのときは立ち会ってないものですから、ちょっと事情は分かりません。

（高田）はい、それじゃあ市民の方で、楽しんでやってる方にお願いします。

（市民）田中です。「生きものばんざいクラブ」のお仲間と一緒に、とても毎日楽しく、定例会を行っております。結構お祭りがあったりとか、作業ばっかりじゃなくて、色々と楽しいことを考えて、どんぐりや松ぼっくりが落ちていたりしたときには、それを使ってみんなで遊ぼうと考えまして、「七夕」の時に、子供たちに汽車ポッポを作ったり、木の切れ端とか小枝とかで動物を作ったり、そんなことで、子供たちも大喜びしていただいたことがあります。

その時、成蹊の学生さんたちが、積極的に木を切ってくださったりして、子供たちを指導していただきました。それから公園に行くととっても気持ちが楽に、楽しくなるんですね。今頃は何もちょっと咲いてないですけどね。それでも５つくらいのお花が咲いていて、やっとこさ見つけたりしております。これからお彼岸の頃にかけて、どんどんどんどんお花が増えてくるんですね。それと、節分の頃にはちゃんとセツブンソウが咲きだしますしね。それから時期に

合わせて、お花がそれぞれ地面の中でいごいごしているのを見てると、あー私たちもそういう空気の時間の流れの中にいるんだなぁっていう気持ちがして、今日１日何をしたかな？なんて思うような生活をしてはいけないなーっと、お花から教えられるような気がいたします。

そんなことで「木の花小路公園」のお手伝いは、とても楽しいんです。旅行もありますので、是非ご参加くださるる方が増えるといいなと思っております。たくさんのお仲間が増えて、あそこで知らない方ともお話ができます。通りすがりに全然知らない方と、お花を通じてお話が膨らんだりしておりますので、いい公園だなっと思っております。

（高田）田中さんは、今諸君たちに回しているお花の写真ですね、あれを撮ってくれた方で、花に関してはものすごく詳しい人です。地域には、ほんとにいろんな能力をもった人がいます。さっきの最初に公園を設計した人とかですね、いろんな人がいます。最後にこのパワーポイントを作ってくれた山田さんに、ちょっとお聞きします。

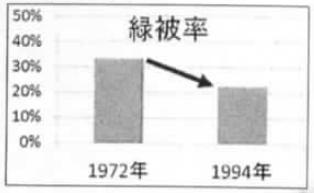
（山田）作っただけで、何もやってないんですけども。私自身は、３年前に櫻井さんのお向かいに引っ越してきたので、仲間に入れて頂きました。私まだ週に２回勤めにいるので、朝な夕なに公園を通るんですが、夕方ですとか、雪の降った朝とか、通るとハッとするような自然に感動することが多くあります。最近、そういう意味で、非常に貴重な公園なんだなっていうのが、ますます好きになっていきそうです。

（高田）はい、ありがとうございます。今ちょうど時間になりまして、30秒ほど過ぎましたけど、櫻井さん、どうもありがとございました。

木の花小路公園開園までの経緯

1. 武蔵野市の緑化政策

・緑被率の減少
・地価高騰→土地細分化
・民有地に多くの緑地



1997年　緑の基本計画
「むさしのリメイク」構想

⇨ 市民の協力が必須

木の花小路公園開園までの経緯

2. 市の公園作りの見直し

2－1）従来の公園の主体は小規模児童公園
2－2）公園に対する市民の要望の多様化
2－3）メンテナンス費用を抑制したい

⇩

市民参加型(WS方式)公園つくり

木の花小路公園開園までの経緯

2. 市の公園作りの見直し

2－4）市民参加型公園つくり
・どのような公園にすべきかを市民に問いかけ、検討への市民参加を募った
・市民が維持管理するにはボランティア活動が必要。

木の花小路公園開園までの経緯

3. 市民による計画作成

3-1）公園の基本計画
① 既存の大木、竹林を保存する
② ミニビオトープの創出
③ "自然"をキーに地域コミュニティの拠点となるような公園
④ 山野草の栽培、昆虫の飼育など体験型公園とする

木の花小路公園開園までの経緯

3. 市民による計画作成

3-2-1) 公園に来る人達の潜在要求

① 身近な緑地
② 心をいやす緑地
③ 季節を感じる緑地
④⑤ 子供の好奇心を満たし、感動させる自然がある緑地

木の花小路公園開園までの経緯

3. 市民による計画作成

3-2-2) 公園周辺住民の立場からの潜在的要求

・ホームレスや暴走族の溜り場となって欲しくない
・騒がしい場所になって欲しくない
・風紀問題やゴミの散乱で見苦しくなって欲しくない
・落ち葉、煙、ゴミなどが庭に流れ込んで欲しくない
・プライバシーが侵されないようにして欲しい

木の花小路公園開園までの経緯

3. 市民による計画作成

3-2-3) 公園管理・運営の観点からの要求

① 新しい発見や感動が得られ、作業が楽しい公園
② 作業の継続により誉めて貰えるような維持活動
③ 清掃作業だけでなく自分も楽しめる維持活動
④ 活動を通じ、学んだり和やかな人の輪を築ける

木の花小路公園開園までの経緯

3. 市民による計画作成

3-3) 木の花小路公園のイメージ図(基本設計)作成

3-1) 里山風公園(子供の頃馴染んだ自然・・・)
3-2) 散策道と栽培地の柵による区別
3-3) 発表など自己実現の場の用意
3-4) ホームレス・暴走族の溜り場防止策
落葉・プライバシー対策

木の花小路公園開園までの経緯
4. 公園 造成工事・開園

4-1) 施工図面制作にて注意したこと
- 水生昆虫の飼育→せせらぎ、池
- 山野草の栽培→ロックガーデン
- 昆虫や野鳥のエサとなる草木類の栽培
- 関東周辺に残る山野草木を中心にするなど自然を取り戻すための工夫と配慮

木の花小路公園開園までの経緯
4. 公園 造成工事・開園

4-2) 自然生態系に配慮した施設
- 地下水くみ上げと循環使用
- 近隣と昆虫にやさしい照明器具の採用
- コケ類に適した安山岩と小動物の隠れ家となる空積みの採用
- 野鳥や昆虫の餌となる品種、生育に適した配置

木の花小路公園開園までの経緯
4. 公園 造成工事・開園

4-3) 開園とマスコミ報道

1998年4月12日　開園！

- 公園ボランティア参加呼びかけ
- FM武蔵野、読売新聞武蔵野版で報道
- 後日、朝日新聞、東京新聞、NHKなどが取材

生きものばんざいクラブの活動

- 開園と同時に、計画段階で参加した人達が中心となって結成。
- 武蔵野市と公園の使用、管理・運営について協定を締結した

生きものばんざいクラブの活動

・特記事項

・1998年：全国市長会や報道等で紹介され、
全国より見学者が訪れた

・1998年：（財）都市緑化基金より「緑の都市賞」を授与

・2000年：環境庁「環境白書」に掲載

・2001年：「自然環境功労者環境大臣表彰状」を授与。
後日、川口環境大臣が公園を視察された。

・2014年：公園面積が2倍に拡張された。

生きものばんざいクラブの活動

・広報活動

・報道機関・・・NHK、FM 武蔵野、ケーブルテレビ

・新聞社・・・読売、毎日、朝日、東京、武蔵野市報

・四季の公園だより・・・市報に掲載。
せせらぎ通信・・・会員、地域住民の交流情報誌

・北町コミセン便り「この北町で―あの人この人―」

・このはなのおと・・・公園にノートを置いた

・歳時記・・・設立当時より12年間続いた。

生きものばんざいクラブの活動

・広報活動

掲示板（&ホームページ）の活用
・・情報交流の場として利用

http://ikimonobanzai.web.fc2.com/

・クラブの連絡事項、イベントの案内
・毎月の公園の様子を写真で紹介

生きものばんざいクラブの活動

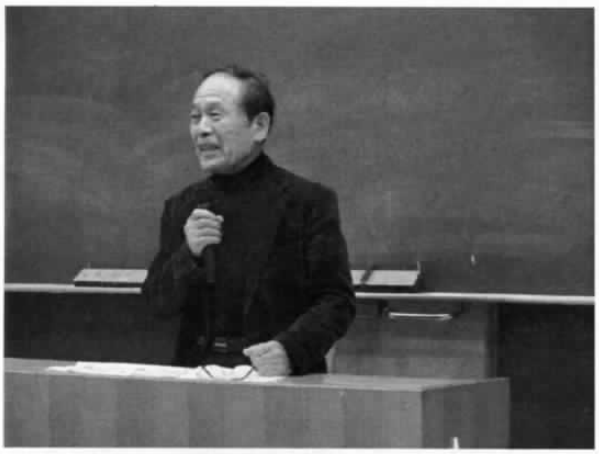
・年間活動計画

・季節の花木、山野草の植え付けと除草

・公園清掃、夏場の散水

・成蹊「桜まつり」への参加

・七夕まつり―地域住民との交流

・研修旅行、新年会、年次総会

・緑ボランティア団体推進会議への参加